

第6学年 総合的な学習活動案

1. 単元名 『『生きる』～命と未来を見つめて～』～仕事体験にチャレンジ～

2. 活動にあたって

こんな子どもだから

本学年の子どもたちは、保育体験や地域の老人介護福祉施設との交流を通して幼児やお年寄りの方とかかわり、その中で「人とかかわり」の大切さに目を向けながら、実際によりよく人とかかわるためにはどんなこと気をつけるとよいかについて考えてきた。仕事については、「お金を稼ぐための活動」や「夢を叶えるためのもの」といった漠然としたイメージを抱いている子が多い。また、お家の人のお手伝いなどで実際に仕事をしたことがある子がほとんどいない状態である。



この単元で

6年生の〇〇キラキラ学習では「生きる」について考えることを学習の大きなテーマとしているが、本年度は「生きる」という言葉がもつたくさんの意味の中でも特に「人とかかわり」に焦点を絞って学習を進めてきている。

本単元では仕事はどういったものなのかを考えながら、仕事体験の中で人とかかわり、個々の課題を解決していくようにする。その中で、問題解決の力を高め、人とかかわる力（コミュニケーション能力）を豊かにし、それと同時に校区の人々に再度目を向けさせていきたいと考えている。

そのために、各体験ごとに意見交流を行いながら、3回の仕事体験を行う。具体的には体験活動を通してできた課題を解決するために話し合いの場を設定する。そこで友だちから次の活動に向けたアドバイスをもらいながら、課題解決の方向性を決め、再び体験の場で実際にさせる。そして、自分なりに試行錯誤をさせながらも、よりよく仕事に取り組んでいこうとする意識の中で、将来の仕事への意欲を高めさせていくとともに、夢をもって仕事に一生懸命打ちこんでいる校区の方々への存在にも気づかせていきたい。



こんな支援で

- 体験の中でできた課題の解決したり、個々のめあてをはっきりさせたりするための話し合いの場を各活動の段階ごとに設定し、子どもが課題意識をはっきりともって活動に取り組めるようにする。
- 子どもたち同士で互いがもっている能力を補い合えるようなグループ設定を行い、課題解決のための意見交流でも自力解決できるようにする。
- 体験活動のあとには活動に対する自己評価、他者評価を行い、活動の成果と課題を一人一人が明らかにできるようにする。
- 意見交流の場面では、国語科の学習で学んだ話し合いの方法や発表の仕方を生かせるよう、話し合いの仕方の掲示をしておく。
- 自分の意図をはっきりと伝えるために意見の内容の順序を工夫できるように、国語科で学習した意見の組み立てに関する掲示物を作成し、より効果的に自分の思いが伝えられるようにする。



こんな力を

- 【表現する力】 仕事について考えたり学んだりしたことを、その過程や判断の根拠をはっきりさせながら、意見交流の場で伝え合うことができる。
- 【追求する力】 仕事体験を通して自分で課題をもち、その解決に向けて工夫しながら活動し、活動の中の成果と課題をふり返ることができる。
- 【共に学ぶ力】 仕事体験を通して仕事についての考えをもち、友だちの考えのよさに共感したり、それを取り入れたりしながら自分のめあてを設定したり、考えを深めたりすることができる。
- 【関わる力】 仕事体験を通して、体験先の方の仕事に対する思いや願いにふれながら、地域の方々と進んでかかわることができる。

3. 主な学習活動と内容、評価規準および教師の支援（30時間）

学習過程 (配時)	主な学習活動と内容 (生かしていく国語科の表現する力)	評価規準 (評価方法)	教師の支援
つかむ (5)	<p>1 「生きる」中での「仕事」について考える。② ○ 人生の中での仕事のとらえ ○ 日々の仕事（委員会活動）のふり返しと課題設定 (小グループによる話し合いで自分の考えについて交流する。)</p> <p>2 仕事体験に行くことを知り、その準備をする。③ ○ 活動グループの設定 ○ 活動のめあての設定 ○ 仕事体験での注意点の確認</p>	<p>【関】仕事体験に向けて、自分なりのめあてを設定し、活動への見通しをもつことできる。 (めあて設定の場面での交流の様子やめあてに関する記述内容の把握)</p> <p>【表】仕事体験に向けての設定しためあての根拠をグループの友だちに的確に話すことができる。 (話し合いでの発言内容)</p>	<p>※ 子どもたちのこれまでの活動（委員会活動など）をふり返らせ、「仕事をして良かった」という思いを想起させる。</p> <p>※ 導入時に仕事をしている地域の方のことにふれ、仕事体験のきっかけにする。</p>
さぐる (19) 本時 14 ／ 30	<p>3 仕事体験(1回目)を自分の力でやりぬく。④ ○ 仕事の大変さの実感</p> <p>4 仕事体験(1回目)をふり返し、次の活動に向けて課題を設定する。③ ○ 活動のふり返し ○ 次の活動で課題解決をするための話し合い (小グループによる話し合いで自分の考えについて交流する。)</p> <p>5 仕事体験(2回目)に行く。④ ○ 自分の課題に挑戦</p> <p>6 仕事体験(2回目)をふり返し、さらによい活動ができるように課題を設定する。③ ○ 活動のふり返し ○ 今まで以上の活動に向けての課題解決をするための話し合い (本時14/19) (小グループによる話し合いで自分の考えについて交流する。)</p> <p>7 仕事体験(3回目)に行く。④ ○ 自分の活動の向上</p> <p>8 仕事体験(3回目)をふり返る。① ○ 活動のふり返し</p>	<p>【関】自分が設定した課題やめあてに向けて、積極的に体験先の方と関わって活動しようとしている。 (行動観察)</p> <p>【追】「仕事」についての学習を深めるための課題を自ら設定し、活動の中で課題を解決していこうとすることができる。 (課題設定についての記述内容の把握、行動観察)</p> <p>【共】友だちの考えに共感したり、よさを取り入れたりすることで、自分の考えを深めたり、活動のめあてを設定したりすることができる。 (交流場面での発言内容)</p> <p>【表】「仕事」へのチャレンジを通して分かったことや考えたことを、経験したことをもとにしながら話すことができる。 (話し合いでの発言内容)</p>	<p>※ 体験活動後の交流ではどんな活動をしたかが思い出せるように、活動の写真を掲示しておく。</p> <p>※ 活動を通して自分の課題は何なのかをはっきりさせるために、自己評価と他者評価をさせ、見比べさせる。</p> <p>※ 活動の様子を掲示物にし、活動ごとに並べていくことで、学習の流れを意識できるようにする。</p> <p>※ 意見交流の場面では国語科で学習した話し合いの形態や意見の発表の仕方などが応用できるよう、掲示物を示して学習内容を思い出せるようにしていく。</p> <p>※ 体験活動前にはもう一度個々のめあてや課題を確認させ、活動の目的をはっきりとさせて活動に取り組ませる。</p>
ふり返る (6)	<p>9 学習したことをふり返し、これからの自分の生き方について考えをもつ。⑥ ○ 活動全体のふり返し ○ 自分の中の仕事への思い(自分の生き方)についての交流 (小グループによる話し合いで自分の考えについて交流する。)</p> <p>○ 「これからの自分の生き方について語る会」の練習・実施</p>	<p>【表】仕事への自分の思いを、体験したことを交えながら話すことができる。 (話し合いでの発言内容)</p> <p>【追】将来の自分の仕事への思いや自分の生き方についてを自分なりに考えを表現することができる。 (語る会での発表内容)</p>	<p>※ 掲示物や活動の記録などから学習したことを想起させ、経験したことを根拠にしながら自分の考えがもてるようにする。</p> <p>※ 語る会ではお世話になったお店の方をGTに招き、感謝の意をこめて、自分の生き方について発表させる。</p>

5. 本時目標

- 3回目の仕事体験に向けて、自分の課題を解決するためのめあてをもつことができる。【追究する力】
- 互いの考えの良さを認め合いながら、体験したことを根拠にして自分の考えを表現することができる。【表現する力】

6. 本時指導の考え方

本時までには、子どもたちは2回の仕事体験を行っている。

まず、仕事がどんなものか、そして地域の大人の方々が仕事の中でどう活躍しているかを知るため、1回目の体験を行った。その中で、子どもたちは初めての本物の仕事に戸惑いながらも、仕事の大変さや苦勞、また楽しさなどを何となくではあるが感じる事が出来た。また、活動後のふり返りでは仕事体験の活動が「よかった、またやりたい」という子がいたが、一方で「なかなかうまくいかなかった」「難しいと思った」と感じていた子もいた。

そこで「どうすれば体験がよりよいものになるのか」「どうやればもっとうまくできるのか」等の一人一人の課題を解決するための話し合いの場を設定し、同じグループのメンバー同士で互いにアドバイスをさせた。話し合いを通して子どもたちは、次の活動が前回よりもうまくいくためのめあてを設定する事が出来たので、それが実際にうまくいくかどうかをやってみるために、2回目の仕事体験を行った。

2回目の体験では、各自が明確なめあてをもつことで、半数以上の子が「前回よりもいい活動ができて楽しかった」という思いをもつことができた。しかし、一部にはまだうまくいかなかった点(課題点)を残した子もいた。

本時では、3回目の体験でより高まった活動ができるように、課題点があった子はその解決法を、うまくいっていた子はさらに活動を高めるための手だてをどうしたらよいかをグループの友だちに相談し、他の子からアドバイスをもらいながら自分に活動のめあて(解決の手だて)を決めていく。

仕事体験でよりよい活動を行うための自分のめあてを決める場面において、①小グループでの話し合いを行い、②それをもとに一人一人が自分のめあてを決め、③何人かを例に取り、考えの変容を全体でみとる過程をとることで、子どもたちはより具体的なめあてを設定することができるとともに、友だちとの交流の中で解決策を見いだしていくことの良さに気づくことができるのではと考える。

そのためにはグループ内での話し合いの時に、より具体的な手だてが子ども同士の会話の中で出てくるようにしなければならないので、発言内容については事前によく確認し、モデルを掲示しておく。

話し合いの場面では小グループで、「独話活動」と同じ流れで進めることで、互いの考えを活発に述べ合えるようにしていきたい。また、発言の仕方については意見を論理的に発表できるよう、国語科で学んだ発表の際の注意点を掲示しておく。

まず、今までの学習をふり返りながら、活動がどうだったかを想起させる。そして、各々に課題があることを確認した上で、その課題を解決するための話し合いを行うことを確認する。

次に、話し合う内容を確認し、話し合いの進め方や意見の言い方(話の組み立て方)などを国語科の学習で学んだことから想起させる。そして、実際に子ども数人と教師で話し合いのモデルケースを示すことで話し合いの様子を具体的に示すようにする。話し合い中には机間指導を行いながら、グループの友だちの課題解決のためにより具体的な意見が言えているかどうかを意識させていく。また、一人一人が自分の課題に対して、友だちのアドバイスを取捨選択しながら解決策(次の活動でのめあて)をはっきりともてるよう助言していく。




そして、グループごとの話し合いが終わったら、何人かの子の話し合いの結果や考えの変容などを黒板で取り上げながら、課題解決に向けて友だちとかかわることの良さ、話し合いをしたことでの考えの深まりなどに気づかせていく。

7. 準 備

(児 童) 学習プリント

(教 師) 仕事体験の写真 発言内容の例(掲示用) 話し合いの手順(掲示用)

8. 本時学習の展開

主な学習活動と内容	教師の支援
<p>1 これまでの活動をふり返り，本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真による仕事体験の想起 ○ めあての確認 	<p>※ 前時までの学習プリントを持たせ，話す内容をはっきりさせておく。</p>
<p>めあて 仕事体験よりよくしていけるように，今もっている課題を克服するための次の活動のめあてをはっきりさせよう。</p>	
<p>2 話し合いの流れと発言内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モデルケースによる話し合いの流れの確認 ○ 話し合いでの発言内容の確認 <p>3 小グループによる話し合いを行い，次回の体験に向けてグループ毎のめあてについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ場所で体験をしたグループ内での発表 ○ 質問や意見の出し合い 	<p>※ 話し合いの司会は事前に決めておく。</p> <p>※ 全体の前で何人かの子と実際に話し合いの様子を示し，どのように話し合いが進んでいくかを確認する。</p> <p>※ 話し合いの流れを掲示しておき，いつでも確認できるようにしておく。</p> <p>※ どんな内容を発言したらよいか，その例を掲示しておく。</p>
 <p>ぼくは仕事体験の中で，一生けん命大きな声でお客様の受け答えをしているのに，Kくんのように商品が売れないからつまらないんだ・・・。</p>	<p>※ 机間指導を行いながら，話し合いで具体的な内容を発言できるよう指導していく。</p>
 <p>だったら，もっと商品の良さをアピールするといいんじゃない？例えば，商品をおすすめするパネルを作ったりとかはどうかなあ？</p>	
 <p>ぼくは言い方をもっと工夫したほうがいいと思うよ。大きな声で言うだけじゃなくて，お店の人のように“スマイル”が大切だと思うよ。</p>	
<p>4 本時学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 何人かの子を例にしながら，話し合いでの考えの変容を確認 ○ めあてのふり返り 	<p>※ 考えの変容が分かるよう，話し合いの前と後との内容を比較して板書する。</p> <p>※ 話し合いを行うことで，課題解決につながっていくことに気づかせる。</p>
<p>評価規準</p> <p>【追】 次時の活動に向けて，テーマに沿った自分の課題にあっためあてをもつことができる。 (学習プリントの記入内容)</p> <p>【表】 互いの考えのよさを認め合いながら，体験したことを根拠にして自分の考えを表現することができる。 (話し合い場面の行動観察)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時の学習の確認 	